

皮膚細菌に対する紙おむつの影響

上前腕皮膚に於けるモデル実験

東京家政大 神野節子・ 花王研 茅川玄雨

1. 緒言: "おむつ"部位は湿潤した状態にあることが多く、微生物の増殖にとって好適な場となる危険がある。実際皮膚にサランラップ等で長時間密封すると、皮膚細菌が増大することはよく知られている。このような環境がカンジダ症等の発症の素地となると想像される。そこで、我々は健康成人女子の上前腕または前腕を紙おむつで包み、バックシートの透湿性、おむつ排尿を考慮して、生理食塩水添加の影響について検討し、知見を得たのでここに報告する。

2. 方法: 上腕と前腕左右に次の8種類の試験検体を添紙して、5時間または24時間後に、それぞれの皮膚部位上の細菌数を測定して比較した。

試験検体	1) 非透湿シート (2.5×2.5 cm)	2) 透湿シート
	3) 1) + 紙おむつ (2×2 cm)	4) 2) + 紙おむつ
	5) 3) + 生理食塩水 0.2 ml	6) 4) + 生理食塩水 0.2 ml
	7) 3) + 生理食塩水 0.4 ml	8) 4) + 生理食塩水 0.4 ml

3 結果: 非透湿バックシートを用いた紙おむつでは生理食塩水添加量が増えるにつれ、皮膚菌数が増大する傾向があつた。透湿シートではこのような傾向はなかつた。また皮膚を直接バックシートで24時間包つた場合、非透湿シートでは明らかに菌の増殖が認められた。

これらの結果から、透湿シートを用いた紙おむつでは、水分の蒸発が妨げられないため、従来の非透湿紙おむつにくらべ、"おむつ"部位の微生物の増殖は起こりにくいと思へた。